

196 骨の燕に葬らるるを其如いかんせむ

197 分は糾纏きうてんに交はるを知る

198 命は詎なんぞ筵ていせんに質たださむ

199 意を敍うぶ千言の裏

200 何人か一に憐あはむべき

口語訳

193 私の粗末な廬いおり は今の私には十分事足りているし

194 この地がおそらく私の終焉の地となるであろうことは間違いなからう。

195 たとえ西晋の羊祜のように、おのれの魂が岷山（湖北の襄陽）を恋しく思っても（どんなに京都を恋しく思

つても）

196 その骨が遠く離れた北方の燕に葬られるとしたらどうであろうか。（私の、この西方の僻地に生を閉じよう

としている心情を察してもらいたい）。

197 （今となつては）さだめというものはあざなえる縄のようなものであると知った。

198 （私の）運命を（今さら）竹を折って占って将来を問うたところで何にならう。

199 以上この千言のうちに、私の意（思い）を述べたが

200 （この詩を読んで）いったい誰が専念に（私のことを）憐れんでくれるというのか（そんな者は存在しないであろう）。